

今治歴史散歩

大成 経 凡

今治の埋もれた、魅力ある歴史文化を紹介するコーナーです。第十七回は、高品質の花崗岩で知られる大島石の特長と歴史を紹介し、その採石業にまつわる近代の秘話を歴史散歩したいと思います。

第十七回

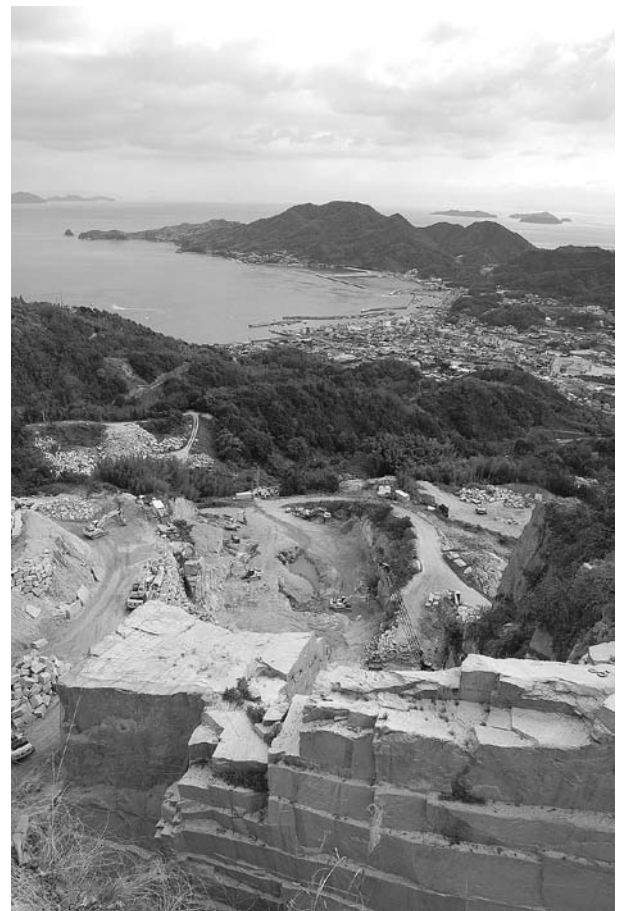
大島石採石業の身近なルーツ

●大島石の特長を知る

瀬戸内海の原因風景といえば白砂青松の海岸ですが、この白砂は花崗岩が風化した粒子です。花崗岩は地球のマグマが約百万年かけて冷えた岩石で、芸予諸島にも岩体が多く分布し、大島石もその一つです。花崗岩は、御影石とも称されますが、これはかつて神戸市御影地区で良質の花崗岩（本御影石）が採れたことから、その名称が花崗岩を指す代名詞となったようです。

では、大島で採れる花崗岩がすべて大島石なのでしょうか。岩体は、念仏山からカレイ山にかけての

東西南北二〜五kmの範囲に限られ、ここで現在三〇ほどの丁場（採石場）が稼働しています。かつては、船の積み出しに便利な海岸付近にも丁場がありましたが、採石技術の発達や運搬経路の整備などで、よりよい石を求めて山の中腹へと移っていききました。一般に石材の品質は、吸水性の低さと圧縮強度の大きさとで評価されますが、鉱物にすぎ間が少なく水を通しにくく、風化に強くて硬い大島石は、その条件をほぼ備えています。よく似た石材もあります。水が滲らすと一目瞭然で、青みがかつた美しい光沢を放つのが大島石です。このため、タイル普及以前は、風呂屋の築造石としての需要も高く、道後温泉本館・神の湯の浴槽（明治二十七年）にも使用されました。



念仏山中腹からの丁場景観
“しまなみアートキャニオン”

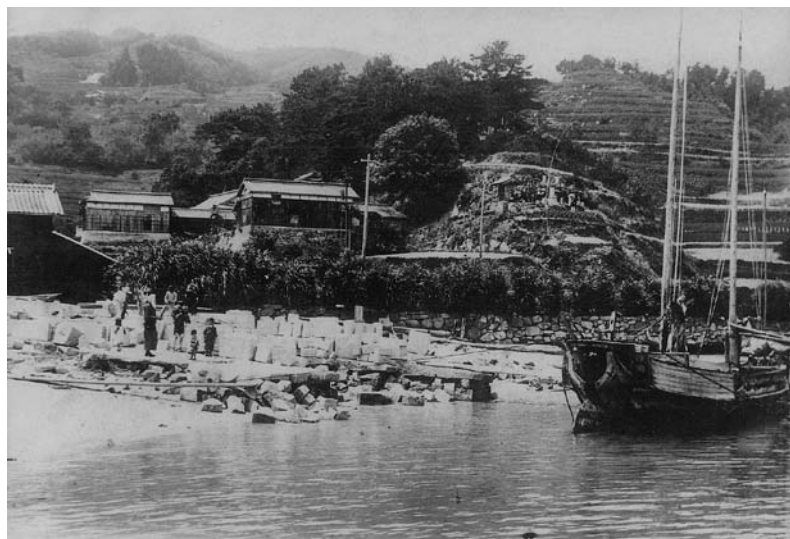
●大島における近代採石業の嚆矢

明治二十九（一八九六）年四月末、愛媛県内の資産家四名らによって、大島石と大三島のバラスの販売などを目的とする、資本金五万円の伊豫興業合資

大島石材廣告

一伊豫縣越智郡大島花崗石ノ良好ナルハ夙ニ
世上ノ認識スル所ニ有之依テ今般本社ニ於テ
全縣同石山ヲ譲受一層業務ヲ擴張シ盛大ニ就
業仕候同向御入用ノ節ハ左ノ箇所ヘ向ケ御
注文被成下度此段廣告仕候也
愛媛縣松山市千船町
伊豫興業合資會社
同縣野間郡波止濱村高野
同縣越智郡大山村宇余所國
同 支店 取扱所

伊豫興業会社の大島石材廣告
（海南新聞／明治29年6月10日）



大山村早川での石船の積み出し光景
(昭和初期／(株)越智久石材センター提供)

会社が設立されます。同社は本店を松山市千船町におき、支店を出資者の一人・木原正博の自宅・波止浜村高部に、取扱所を丁場の多い大山村余所国（現、今治市宮窪町余所国）においています。

役員の中には、今治有数の綿ネル会社・興業舎の一族で元衆議院議員・柳瀬春次郎もいました。すでに知名度のあった大島石は、工業勃興の時流に乗って将来が有望視されていました。一方、現場で指揮をとったのは木原で、現地の石山を譲り受け、稼業に必要な敷地を一〇年契約で借用しています。これによって、石材運搬道路が整備されて大島採石業の近代化が図られました。

明治三十年代以降、地元紙の海南新聞に大島石の掲載記事が増えます。その一部を紹介すると、「大島宮窪及び余所国の石材は岡山県北木、山口県徳山と共に関西三大石山を以て並び称せらるゝものなるが材料豊富、品質艶麗なるは大島石の特長なりと云ふ」（同二十一年四月六日）や「（宮窪村の）特産物は石材にして其質良好販路は東京々坂其他一般にして一ケ年の収得金五万円以上に達すべし」（同二十七年八月十一日）があります。これらに共通するのは、品質の高さを謳っていることです。

●大島石材業の父、長井兼太郎

明治三十九年からは、日吉村蔵敷（現、今治市蔵敷町）から宮窪村へ移住した長井兼太郎が躍動を見せます。もともと長井は、木原と提携して大島石の販売に従事しており、新たに波止場を整備して船積み便を図りました（ともに明治三年生まれ）。今日、大島石を使った歴史的建造物を紹介する際、長井家納入記録がもたっていることから、彼が全国で営業活動に努めたことがうかがえます。

その実績として、海軍省・赤坂離宮・東宮御所・高野山金剛峯寺などへの納入があり、日本銀行本店（明治二十九年）と大阪心斎橋（同四十二年）がその代表例です。明治四十年代に入ると、長井が販売主任を務める宮窪大島石材同業組合と余所国三者協業組合が販売価格協定を結び、大島石の安定供給を図っています。かつて清酒「笹の井」の醸造元で知られた余所国の村上家も、石材販売を手がけた時期がありました。

大島石の用途は、建築用材だけでなく、墓石・記念碑・護岸工事など多岐にわたります。今日では、高級墓石の原石需要が高いようです。ただ、採石したうちの二割程度しか製品化されず、多くは廃石となつていきます。それにどう付加価値をつけるのが課題でもあります。一方で、石割体験や丁場見学を取り入れた大島石文化体験ツアーが平成二十四年一月から始まり、市内に二〇基所在する重要文化財の中世石塔（五輪塔・宝篋印塔など）にも注目が集まるなど、花崗岩の魅力は奥が深いようです。



大島石製の『村上海賊の娘』記念碑
(今治市村上水軍博物館／池田英貴氏作)